

【第四弾】 神山威氏の講演内容の誤り、

およびみ言解釈の誤り（後編）

神山威氏は、二〇一四年六月十八日、韓国・釜山で開催されたUCI（別名・郭グループ）の集会で講演をし、その後、同年九月には東京、名古屋、福岡で講演会を行い、天國經典『天聖經』の批判、真のお母様に対する批判、および後継者問題などについて、自説を語り、統一教会員の一体化を損ねる分裂行動をしました。その言動に対して、本部は【第一弾】【第二弾】の「神山威氏の講演内容の誤りについて」という公式見解（注・本誌に既に連載）で応答しました。

ところが、神山氏はそれらの【第一弾】【第二弾】の公式見解を無視し、同氏に同調するブログを通じて、自説を掲載するなどし、分裂行動を継続しました。そこで本部は、さらに【第3弾】【第4弾】の公式見解を発表して、神山氏の講演内容およびみ言解釈の誤りを指摘してきました。なお、誌面の都合上、文字数の制限があるために、より詳しくは「真の父母様宣布文サイト」(http://trueparents.jp/)をご覧ください。

注・本文中、神山氏側の主張は「茶色」で、真の父母様のみ言や公式見解は「青色」で色分けしています。

(3) 真のお母様は、神に選ばれた血統を通じて聖誕

様が聖誕されたことについてどのように語っておられます。

真のお父様は、神によって選ばれた血統を通じて、真のお母

「誰もがお母様になることができるのではありません」(「真の御父母様の生涯路程⑩」七

五ページ、以下、『生涯路程⑩』と表記)、「お母様になる人は、血統的によどのような過程を経なければならぬでしょうか。お母様を選ぶに於いては、すべての条件が合わなければなりません。それは簡単ではありません。……その第一の条件は、どのような血筋に生まれついたかということ。サタン世界から譴訴され得る血統の因縁を……乗り越えることができる血統的内縁をもって生まれたのかということが重要です」(同、二二二～二三ページ)

時機と場所に適合、という内容になります(『原理講論』二四六～二四七ページ)。

①選民の一人(血統)

真のお母様の家系はクリスチャンであり、祖母の趙元模氏、母の洪順愛・大母様は、再臨主を待ち望む聖主教、腹中教に属していました。

真のお母様になられる女性は、神に予定され、サタンの譴訴を乗り越えうる血統を通じて生まれます。そこには、「予定論」の問題が関わってきます。神の予定とは、①選民の一人(血統)、②善なる功績の多い先祖の子孫、③み旨を成就する天稟を先天的に持つ、④後天的な条件を具備、⑤天が必要とする

「お母様のお母さんは、許浩彬に篤実に従っていた人でした。お母様のお母さんは、お母様が四歳の時にその集団に連れていったのですが、許浩彬の母親がお母様を祝福したのです。……先生が一九六〇年にお母様と出会った時……神様によって準備されてきたすべてのことが……一つになったのです。それで、今、真の父母が現れたのです」(同、三九～四〇ページ)

「お母様のお母さんになる大母様は、一生を信仰一筋に生活してこられた方です。……(再臨主を待ち望む)聖主教の金聖道……腹中教の許浩彬(孝彬)の系統を受け継ぎ、おばあさん(大母様)が信仰の主流の伝統を受け継がれ……お母様を生んで三代目のエバ的役事をなしたのですが……三代が再臨主を迎えるための準備をしました。……お母様のお母さんは、主を迎えるために精誠を尽くすことにおいては韓国の代表です。主

が人として来られるとあって、腹中教から従ってきた者たちなのです」(「生涯路程⑩」三七～三八ページ)

立てた人の子孫です。この橋の建設に際しては、次のようなエピソードが残されています。

②善なる功績の多い先祖の子孫

真のお母様は、善なる功績の多い先祖の子孫として生まれました。

「趙漢俊が物を蓄え、(撻川江に)石橋を架け始めた。……仕事を終え、趙氏は死んだ。その日からおかしな気運が天に起こり……『趙漢俊は弥勒様となって再びこの世にお生まれになる』という声が聞こえた。翌朝、その声の聞こえてきた所を訪ねてみると、なんと大きな弥勒様が大山の南方にそびえるようにして立っていた……」(『聖地定州』六二ページ)

また、真のお父様は、次のように語っておられます。

「お母様の先祖はどこですか。平安南道でしょう。平安南道の韓氏ですが、韓氏の先祖は……清州です。……名前が『清い』という字に『州』という字でしょう? 清い州です。……女性を誇ることができる家門があるとするれば、文先生の奥様の韓氏以上に誇ることができる家門がどこにありますか」(同、一六～一七ページ)

真のお母様は、中国の使臣が通る「撻川橋」を建設したことで有名な趙漢俊という功労を

「エバがアダムを通して造られたように、お母様は、全く分からぬところから出てこなければなりません。親戚が多くてはいけません。三代があとについできてはいけません。」

③み旨を成就する天稟を先天的に持つ

真のお母様は、み旨成就のため天稟を先天的に持っておられ、後天的条件も具備されています。

「お母様は、本来おとなしい方です。今、四方にすべて目を注ぐことができるのは、私に会ってそのように訓練されたからです。事実、おとなしい女性です。青坡洞に行ったり来たりする時も、一つの道だけを行くのです。いつもきちんとその道を行くのです。……また……女性として非常に端正だということです。きちんとしています。お母様がしとやかにしている時は誰にも劣らない、尊敬することが出来る内的な性質をもっています。また、伝統的に『ため』に生きる愛をもった代表的な女性を探してみると、お母様がすべての面において一致するので選んだのです。文総裁の目は偽物ではありません。……心が美しいので、顔が美しいのです。心が美しいので、声も美しく、姿も優雅なのです。壇上でも、とても自然です。……壇上が上がっていけばチャンピオンのように堂々としてい

たのです。

見掛けはおとなしく見えますが、度胸があるのです。…壇上に立っても少しも動揺しません。それゆえに先生は、お母様として迎えたのです。『今はなんだかんだ言うが、見ていなさい』と思ったのです」（同、五三〜五四ページ）

「お母様の特別なところは何かというと、霊感が素早いところですよ。…天性的な素質をもっています。そして、先生が『しなさい』と言うことは何でもしようと思わず、またその決意したことを常に失わずに歩んできたので、受難の道も克服することができたのです。…」

そして、私がお母様に有り難く思うことは、自らの貴いものを、自分の息子、娘ではなく皆さんに、ためらうことなく一〇〇パーセント譲ってあげようとするその性格です。その性格は、神様が贈り物として下さった性

格だと思ふのです。…第一は、

霊感が素早いということに対して天に感謝し、第二は、み旨に対して絶対従順しようとすることに感謝し、第三は、自分のものを、自分のものではなく、世界のものとしてそのままらわずに分けようとすることに感謝するのです。…それが天性的に生まれついているということとは、お母様としての性格を備えているのです」（同、二二三〜二四ページ）

④後天的な条件が具備

「お母様はとても知恵深い女性です」（同、四八四ページ）

「統一教会の皆さんが私を信じるよりも、お母様のほうがもっと私を信じているのです。あらゆる面において（お父様を）尊敬しているということを知らなければなりません」（同、四九一〜四九二ページ）

また、真のお母様は、真のお

父様の「十二人以上の子女を生んでほしい」という願いを命懸けで実現されました。

「お母様が二十一年間に十二人以上の息子、娘を生まなければ大変なことになります。…ヤコブ家庭では、四人の女性たちが生んだ息子、娘だったために問題になったのです。先生の時代にその問題を克服するために、（一人で）二十一年以内に十二人以上の息子、娘を生まなければ、母の使命が不可能になるというのです」（『神様の祖国解産完成』八五〜八六ページ）

⑤天が必要とする時機と場所に適合

真のお母様は、真のお父様が「日本留学」をされて真理探究の道を究めておられるとき、一九四三年、お父様と同じ誕生日（陰暦一月六日）にお生まれに

なりました。

以上のように、全ての条件を具備しておられる真のお母様は、「真の母」として、神に予定されて生まれてこられた女性であることが明確に分かります。

聖書をひもとくと、イエス様は聖霊によって宿った（マタイ一・18、同一・20）とありますが、聖霊による誕生はイエス様に限らず、洗礼ヨハネについても「母の胎内にいる時からすでに聖霊に満たされており」（ルカ一・15）と記されており、洗礼ヨハネも母の胎内にいるときから「神様の選び」によって受胎し、生まれているのが分かります。

再臨摂理においても、再臨主であられる文鮮明先生は、神によって遣わされてお生まれになりましたが、その相對者となる女性（真の母）も、母胎におられるときから神の選びによって「聖霊」に満たされてお生まれになり、「独り娘」として地

上に現れてこられたおかたであるということが出来ます。

(4) 真のお父様は、生まれながらにこの「神の独り子」です

神山氏は「公開質問状」で、真のお母様が二〇一四年七月一日に「お父様の歴史は、イエス様の使命を引き継いだその時、その瞬間が、お父様が独り子となられた資格です」と述べたのだと断定し、お母様は真のお父様が生まれながらにして「メシヤ」であられることを否定していると言って、お母様を批判します。しかし、神山氏のこの批判は、**不正確な日本語**に基づいています。

真のお母様のみ言を直訳すれば、「イエス様の顕現とともに、イエス様のみ業を継承しました。そのとき、その瞬間、お父様は独り子の資格だ」です。したがって、日本語の翻訳に際しては、「イエス様の顕現

とともに、イエス様のみ業を継承しました。そのとき、その瞬間、お父様は独り子の資格を持たれていました」と翻訳できます。

真のお父様は、一九三五年四月十七日、故郷の定州チョンジュで深い祈禱をしておられるときにイエス様が顕現され、神の召命を受けられました。そのとき、イエス様が果たせずに残された使命を受け継がれ、メシヤとしての道を歩んでいかれましたが、真のお母様はその事実に基づき、「そのとき、その瞬間、お父様は（既に）独り子の資格を持たれていました」と語っておられるのだと理解できます。

神山氏は、常に批判的な目で真のお母様を見ているために、その言葉尻を捉え、批判しているものと言わざるをえません。真のお父様は、次のように語っておられます。

「私が死んでも（お母様には）

統一教会を導くことができる能力もあるのです、お母様が説教する時が来るのです。…そのよくな時は、（お母様に）絶対服従しなくてはなりません。…お母様に良い点が本当に多いのです。素晴らしいというのです。それゆえに、そのようなものをすべて見て、お母様として選んだのではないですか。

顔を見れば分かるのです。慎ましいのですが恐ろしい女性です。一度決心すれば、最後まで自分一代でこの複雑な恨の峠をすべて清算するという決心が、私よりもお母様ももっと強いのです。

先生は、今七十を超えたので、ごみ箱の近くに行きましたが、お母様は、今ごみ箱を收拾してそれをすべて掃除することができると言われたので、先生よりもお母様をもっと重要視することが出来る統一教会の食口になれば福を受けるのです」（『生涯路程』⑩「三五二〜三五二ページ」）

ージ）

神山氏は、「お母様がお父様のようなみ言を語られなくても不思議ではないし、それが問題ではありません」（『公開質問状』二）と述べて、真のお母様がみ言（説教）を語られることを軽んじていますが、真のお父様は、明確に「お母様が説教する時が来るのです」と語っておられます。そして、「先生よりもお母様をもっと重要視することが出来る統一教会の食口になれば福を受ける」とも語っておられるのです。

真のお父様は、ご自分の聖和ソングフ後、統一食口が真のお母様に絶対服従することを願っておられます。私たちは、その意向を生命視しなければなりません。神山氏が、真のお父様のみ言を軽んじて、真のお母様を重要視することができず、永遠に「福」を逃してしまわないことを心から願います。